令和8年度着手

県営　塩瀬（しおせ）地区　土地改良事業計画書

（農地環境整備事業）

愛　知　県

目　　次

第１章　目　的　1
第２章　地域及び地積　1
第１節　地　域　1
第２節　地　積　1
第３章　現　況　2
第１節　気　象　2
1　一般気象　2
2　特殊気象　3
第２節　土地状況　4
1　地形、土壌及び浸食の程度　4
2　土地分類　5
3　土地利用の状況　5
4　土地所有の状況　6
第３節　水利状況　7
1　用水状況　7
2　排水状況　9
3　河川状況　12
第４節　道路概況　13
1　道路概況　13
2　主要道路一覧表　13
第５節　地域農業の概況　13
1　産業別就業人口　13
2　経営耕地広狭別農業経営体数　15
3　主要家畜頭数　15
4　主要作物作付状況　16
5　農業の動向　17
第６節　地域環境の概況　18
第４章　一般計画　18
第１節　事業計画の要旨　18
1　要　旨　18
2　事業別面積　18
第２節　営農計画及び土地利用計画　19
1　営農計画の概要　19
2　土地利用区分　19
3　作付方式　20
4　生産計画　21
5　労働改善計画　22
6　級地別土地利用区分　22
7　土地配分計画　22
第３節　用水計画　22
1　計画基準年　22
2　計画かんがい方式　22
3　計画用水系統　22
4　計画用水量　24
5　水源計画　24
第４節　排水計画　26
1　計画基準雨量　26
2　計画排水方式　26
3　計画排水系統　26
4　計画排水量　28
5　排水対策　29
6　湛水検討　30
第５節　道路計画　30
1　道路及び索道　30

目　　次

2　路線配置図　30
第６節　農用地造成計画　32
第７節　洪水調整計画　32
第８節　干拓計画　32
第９節　農用地整備計画　32
1　区画整理　32
2　暗渠排水　34
3　客　　土　34
4　農地保全　34
第１０節　老朽ため池改修計画　34
第５章　主要工事計画　34
第１節　用水施設　34
1　貯 水 池　34
2　頭 首 工　34
3　揚 水 機　34
4　用 水 路　34
5　その他かんがい施設　34
第２節　排水施設　35
1　排水水門　35
2　排 水 機　35
3　排 水 路　35
4　その他排水施設　35
第３節　道路及び索道　35
1　道路　35
2　索道　35
第４節　農用地造成　36
第５節　洪水調整施設　36
第６節　干拓施設　36
第７節　農用地整備施設　36
1　区画整理　36
2　暗渠排水　36
3　客　　土　36
4　除　　礫　36
5　農地保全　37
第８節　老朽ため池改修施設　37
第６章　附帯工事計画　37
第７章　工事の着手及び完了の予定時期　37
第８章　環境との調和への配慮　38
第９章　換地計画の概要　38
第１節　換地計画を作成する上での基本的な考え方　38
第２節　換地区の設定　38
1　換地区の名称、所在、面積　38
2　換地区を設定する理由　38
第３節　換地計画樹立の基本方針　39
1　従前の土地の面積の基準　39
2　用途別予定地積　39
3　農用地集団化の方針　39
4　非農用地の換地方法　40
第４節　土地の評価及び清算の方法　40
1　評価の方法　40
2　清算の方法　40
第５節　換地計画樹立の年度計画　40
第６節　換地処分の時期に関する特則　40
第10章　事業費の総額及び内訳　41
第11章　効　　用　41
第12章　関連する事業　42
第13章　現況・計画平面図　42

第１章　目　　的

本地区は新城市中心部より北に約10km離れた河川と山に囲まれた面積約14.2haの水田地帯であり、水田では水稲を中心に、畑では蔬菜などの栽培が行われている。

本地区は、圃場整備未実施である。そのため用排水路は老朽化及び施設の破損が進み、日々の水管理に多大な労力を費やしている。また、道路の幅員が狭く効率的な営農の妨げとなっている。

本事業は、区画拡大並びに老朽化した用排水路施設の整備、道路幅員の拡幅を行う。これにより、農作業及び維持管理の省力化を図るとともに、優良農地の保全を促進することにより、農作業の放棄による農地の荒廃を防ぐことを目的とする。

第２章　地域及び地積

第１節　地　　域

（第1表）

事　業　名	地　　域
農地環境整備事業	新城市

第２節　地　　積

（令和8年1月現在）　（第2表）

現況地目 / 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原　野 (ha)	山　林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備　考
新城市	11.4	1.6	－	0.1	1.1	14.2	登記簿面積及び図測
合計	11.4	1.6	－	0.1	1.1	14.2	

第３章　現　　況

第１節　　気　　象

１　一般気象

（第3表-1）

<table>
<tr><td>観測所名</td><td>鳳来→新城</td><td>かんがい期</td><td>非かんがい期</td><td rowspan="2">計又は平均</td><td rowspan="2">備　　考</td></tr>
<tr><td>観測期間</td><td>平成３年～
令和２年</td><td>4月～９月</td><td>10月～3月</td></tr>
<tr><td colspan="2">平　均　気　温　（　℃　）</td><td>21.4</td><td>9.0</td><td>15.2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">降　　水　　量</td><td>平　均(mm)</td><td>1,355</td><td>670</td><td>2,025</td><td></td></tr>
<tr><td>基準年(mm)</td><td>727</td><td>630</td><td>1,357</td><td>機構営豊川用水二期事業変更計画（昭和22年）による。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">降　水　日　数</td><td>平　均(日)</td><td>68</td><td>45</td><td>113</td><td></td></tr>
<tr><td>基準年(日)</td><td>55</td><td>53</td><td>108</td><td>機構営豊川用水二期事業変更計画（昭和22年）による。</td></tr>
<tr><td colspan="2">根　　雪　　期　　間</td><td colspan="3">－月－日　　～　　－月－日　　（ － 日間）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">無　　霜　　期　　間</td><td colspan="3">－月－日　　～　　－月－日　　（－日間）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">最　　多　　風　　向</td><td>E</td><td>最大風速
（風　向）</td><td>18.0
（　E　）</td><td>最多風向発生時期　　1　月　～　12　月
最大風速発生年月日　　平成21年10月8日</td></tr>
</table>

２　特殊気象

（第3表-2）

観測所名 鳳来→新城	第１位			第２位			第３位			第４位			第５位			備　考
観測期間 昭和54年　～　令和6年	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	
最大日雨量 (mm)	419.5	R5.6.2	1/382	315.0	S57.8.3	1/57	237.5	R6.8.27	1/13	232.0	H3.9.19	1/11	225.0	S58.8.17	1/10	
最大時間雨量 (mm)	79.5	R3.6.17	1/46	69.0	R5.6.2	1/20	67.0	H6.8.9	1/17	66.5	R4.7.9	1/16	63.0	R6.8.31	1/12	
最大４時間雨量 (mm)	168.0	S54.10.19	1/82	155.0	R5.6.2	1/45	134.0	H23.9.21	1/17	127.5	R4.7.9	1/13	126.0	H3.9.19	1/12	
最大連続雨量 (mm)	734.0	R6.8.22 ～9.3	1/131	537.5	R3.8.12 ～8.23	1/30	501.0	S57.8.1 ～8.3	1/22	463.5	R5.5.29 ～6.3	1/16	440.0	R2.7.3 ～7.11	1/13	
最大連続干天日数 (日)	40	S61.1.5 ～2.13	1/53	37	H10.12.9 ～1.14	1/34	36	H9.10.8 ～11.12	1/29	31	H11.12.7 ～1.6	1/13	31	H21.8.12 ～9.11	1/13	

第２節　　土地状況

１　地形、土壌及び浸食の程度

（第4表-1-1）

事業名	地　　目	田						畑　・　その他								受益地標高(m)		備考
	傾斜区分	1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 ～ 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～15° 8° ～10°	10° ～12°	12° ～15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
農地環境整備事業	面　積 (ha)	11.4	－	－	－	－	11.4	1.6	－	－	－	－	－	－	1.6	175.5	145.5	
	比　率 (%)	100	－	－	－	－	100	100	－	－	－	－	－	－	100	－	－	

（第4表-1-2）

項　目 ＼ 土壌統（区）名	土壌統（区）区分一覧表										面　積(ha)	備考
	土壌断面								堆積様式	母材	事　業　名	
	色	腐植	礫層	酸　化 沈殿物	土　性 表土 一層	下層土 二層	下層土 三層	泥炭層 黒泥層 グライ層			農地環境整備事業	
大草統 Ok-1	灰褐色	なし	30～60 cm以下 礫層	糸根、膜、管、結核状 なし～含む	壌質	壌～粘質	壌～粘質	なし	水積	非固結水成岩	11.4	水田
高雄統 Tk-1	灰色	表層腐植層 あり	なし	なし	壌～粘質	壌～粘質	壌～粘質	なし	洪積	非固結水成岩	0.9	畑
幡豆統 H-1	黄褐色	なし	なし	なし	壌質	壌質	壌質	なし	崩積	固結火成岩	0.7	畑
計											13.0	

（第4表-1-3）

事業名	区分	土壌の流亡率				年平均流亡速度				ガリ浸触の程度		備　考
		0	0～25%	25～50%	50%以上	0	3mm未満	3～5mm	5mm以上	中程度のもの	大なるもの	
	面積(ha)											
	比率(%)											

２　土地分類

該当なし

３　土地利用の状況

（令和8年1月現在）　　（第4表-3）

事業名	土地利用別 / 市町村名	耕地						原野	山林	採草放牧地	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	樹園地 (ha)	その他 (ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農地環境整備事業	新城市	11.4	1.6	－	－	－	－	－	0.1	－	1.1	14.2	
	計	11.4	1.6	－	－	－	－	－	0.1	－	1.1	14.2	

4　土地所有の状況

（令和8年1月現在）　（第4表-4）

事業名	区分＼所有別	個人有地等	国有地	県有地	市有地	改良区有地	計	備　考
農地環境整備事業	面　積　(ha)	13.7	0.0	－	0.5	－	14.2	
	受益者数（人）	31	1	－	1	－	33	
	筆　数（筆）	226	7	－	35	－	268	
	権利関係	－	－	－	－	－	－	
	備考（関係戸数）	31	1	－	1	－	33	

第３節　　水利状況

１　用水状況

本地区の用水は一級河川巴川及び島田川より取水しており、一部のほ場では一部渓流取水している。U字溝を通して各ほ場に配水しているが老朽化が進み、日々の維持管理に多大な労力を費やし、更新整備が望まれている。

（１）用水系統

（次頁　現況用水系統図参照）

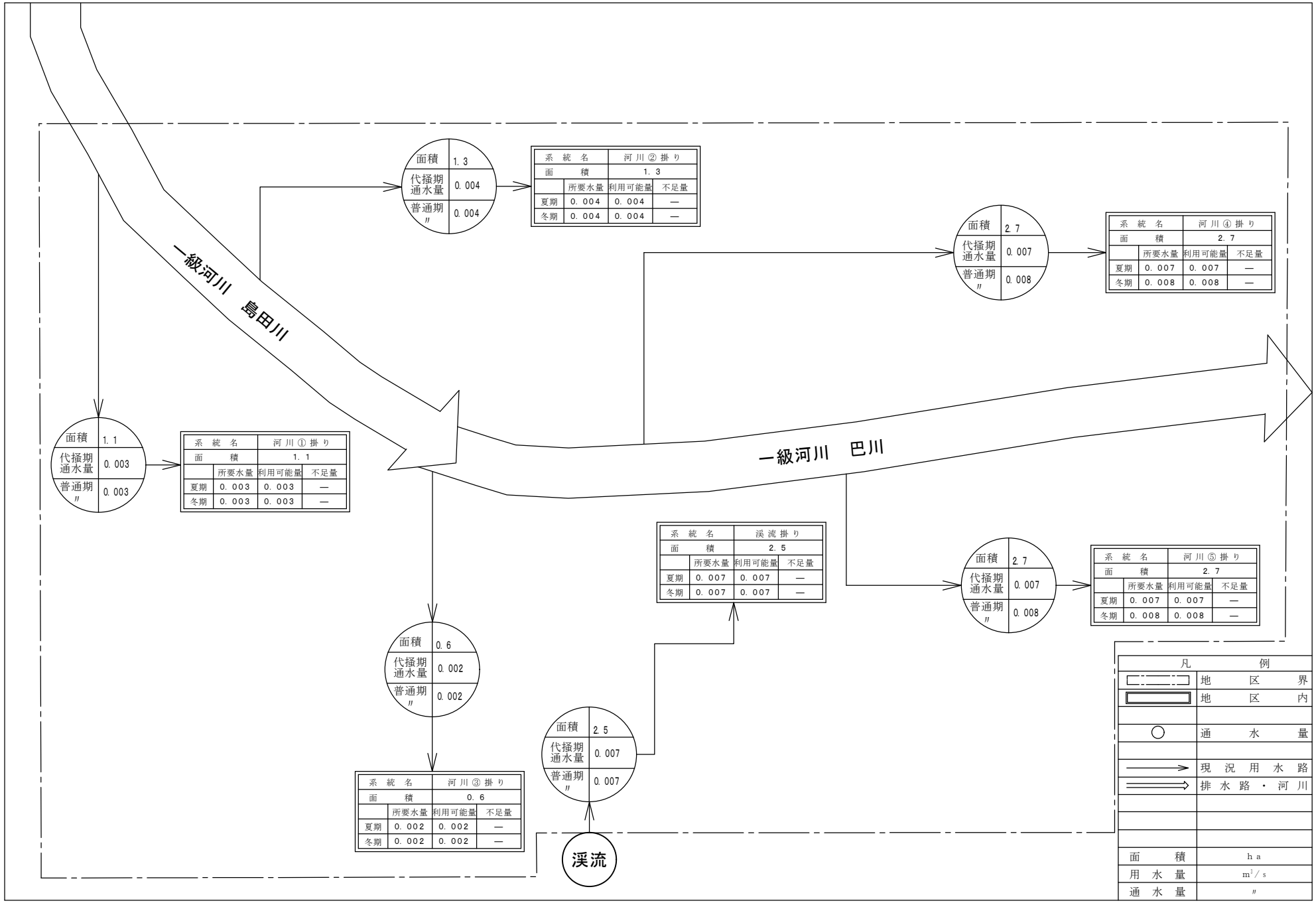
（２）用水施設

（ア）取水方法一覧表

（第5表-1）

事業名	項目 / 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量	備　　考
		500ha以上		100～500ha		100ha未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	㎥/s	箇所	㎥/s	㎥/s	
農地環境整備事業	貯水池	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	井堰	－	－	－	－	5	8.4	5	8.4	－	－	5	0.0250	－	
	自然取入口	－	－	－	－	1	2.5	1	2.5	－	－	1	0.0070	－	
	揚水機	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	計	－	－	－	－	5	10.9	5	10.9	－	－	5	0.0320	－	

現　況　用　水　系　統　図


一級河川　島田川
一級河川　巴川
面積 1.3
代掻期通水量 0.004
普通期〃 0.004
系統名 河川②掛り
面積 1.3
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.004 0.004 —
冬期 0.004 0.004 —
面積 2.7
代掻期通水量 0.007
普通期〃 0.008
系統名 河川④掛り
面積 2.7
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.007 0.007 —
冬期 0.008 0.008 —
面積 1.1
代掻期通水量 0.003
普通期〃 0.003
系統名 河川①掛り
面積 1.1
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.003 0.003 —
冬期 0.003 0.003 —
系統名 渓流掛り
面積 2.5
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.007 0.007 —
冬期 0.007 0.007 —
面積 2.7
代掻期通水量 0.007
普通期〃 0.008
系統名 河川⑤掛り
面積 2.7
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.007 0.007 —
冬期 0.008 0.008 —
面積 0.6
代掻期通水量 0.002
普通期〃 0.002
系統名 河川③掛り
面積 0.6
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.002 0.002 —
冬期 0.002 0.002 —
面積 2.5
代掻期通水量 0.007
普通期〃 0.007
渓流
凡例
地区界
地区内
通水量
現況用水路
排水路・河川
面積 ha
用水量 m³/s
通水量 〃

（イ）改修を要する施設一覧表　　（第5表-2）

事業名	施設名＼項目	施設名又は箇所数	受益面積(ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
農地環境整備事業	貯水池	－	－	－	－	－	－	
	井堰	－	－	－	－	－	－	
	自然取入口	－	－	－	－	－	－	
	揚水機	－	－	－	－	－		
	用水路	農業用用水路 4.8km	10.9	開水路	U150～600×600	－	老朽化	
	その他	－	－	－	－	－	－	
	計	－	10.9					

（３）用水に関する被害状況

（ア）用水不足による被害状況

該当なし

（イ）その他の被害状況

該当なし

（４）ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

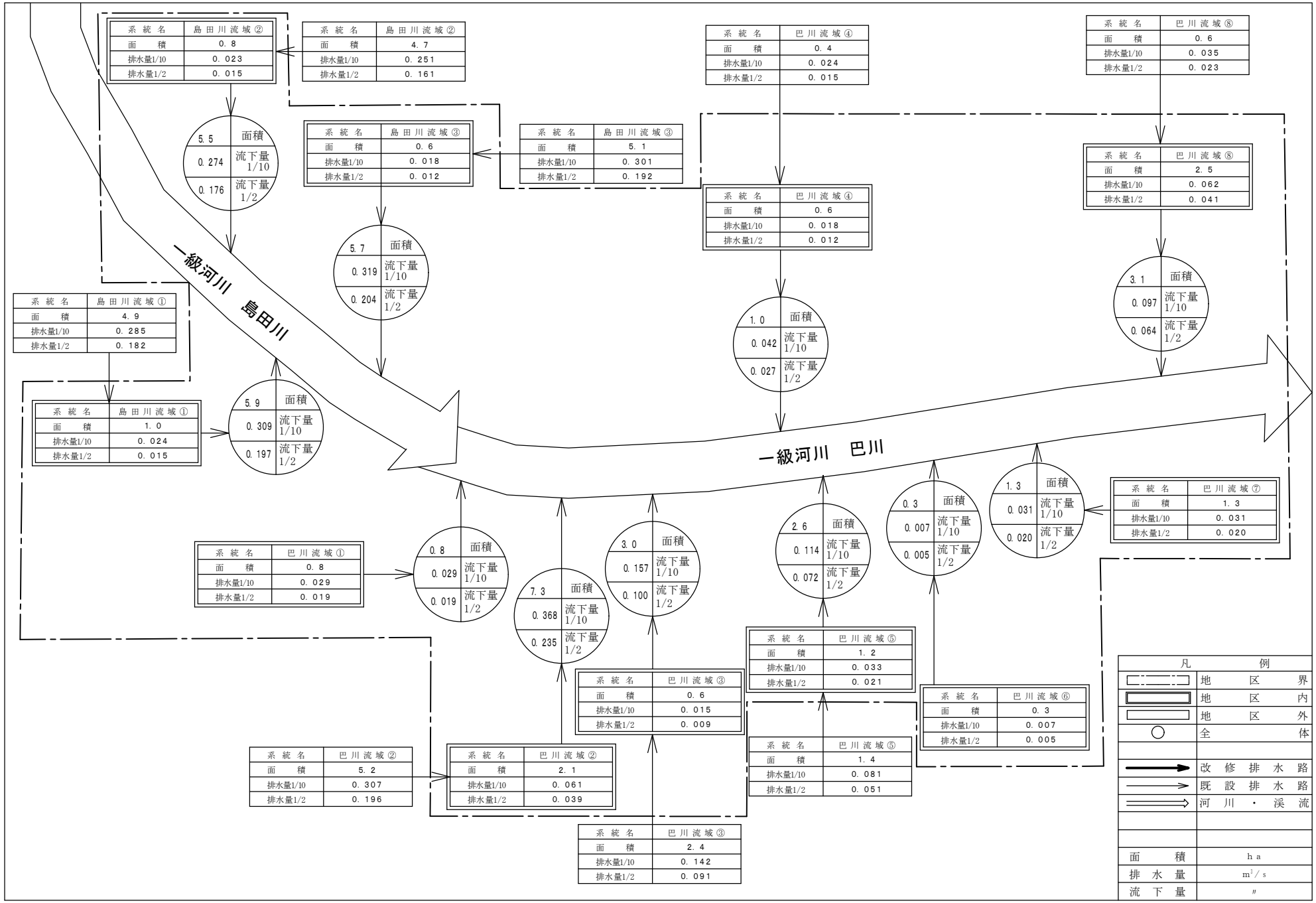
２　排水状況

本地区の排水は、巴川を排水本川としている。施設の破損や老朽化が進み、日々の維持管理に多大な労力を費やし、更新整備が望まれている。

（１）排水系統

（次頁　現況排水系統図参照）

現　況　排　水　系　統　図


一級河川　島田川
一級河川　巴川
島田川流域①
面積 4.9
排水量1/10 0.285
排水量1/2 0.182
島田川流域①
面積 1.0
排水量1/10 0.024
排水量1/2 0.015
面積 5.9
流下量1/10 0.309
流下量1/2 0.197
島田川流域②
面積 0.8
排水量1/10 0.023
排水量1/2 0.015
島田川流域②
面積 4.7
排水量1/10 0.251
排水量1/2 0.161
面積 5.5
流下量1/10 0.274
流下量1/2 0.176
島田川流域③
面積 0.6
排水量1/10 0.018
排水量1/2 0.012
島田川流域③
面積 5.1
排水量1/10 0.301
排水量1/2 0.192
面積 5.7
流下量1/10 0.319
流下量1/2 0.204
巴川流域①
面積 0.8
排水量1/10 0.029
排水量1/2 0.019
面積 0.8
流下量1/10 0.029
流下量1/2 0.019
巴川流域②
面積 5.2
排水量1/10 0.307
排水量1/2 0.196
巴川流域②
面積 2.1
排水量1/10 0.061
排水量1/2 0.039
面積 7.3
流下量1/10 0.368
流下量1/2 0.235
巴川流域③
面積 0.6
排水量1/10 0.015
排水量1/2 0.009
面積 3.0
流下量1/10 0.157
流下量1/2 0.100
巴川流域③
面積 2.4
排水量1/10 0.142
排水量1/2 0.091
巴川流域④
面積 0.4
排水量1/10 0.024
排水量1/2 0.015
巴川流域④
面積 0.6
排水量1/10 0.018
排水量1/2 0.012
面積 1.0
流下量1/10 0.042
流下量1/2 0.027
巴川流域⑤
面積 1.2
排水量1/10 0.033
排水量1/2 0.021
巴川流域⑤
面積 1.4
排水量1/10 0.081
排水量1/2 0.051
面積 2.6
流下量1/10 0.114
流下量1/2 0.072
巴川流域⑥
面積 0.3
排水量1/10 0.007
排水量1/2 0.005
面積 0.3
流下量1/10 0.007
流下量1/2 0.005
巴川流域⑦
面積 1.3
排水量1/10 0.031
排水量1/2 0.020
面積 1.3
流下量1/10 0.031
流下量1/2 0.020
巴川流域⑧
面積 0.6
排水量1/10 0.035
排水量1/2 0.023
巴川流域⑧
面積 2.5
排水量1/10 0.062
排水量1/2 0.041
面積 3.1
流下量1/10 0.097
流下量1/2 0.064
凡例
地区界
地区内
地区外
全体
改修排水路
既設排水路
河川・渓流
面積 ha
排水量 m³/s
流下量 〃

（２）排水施設

（ア）排水方法一覧表

（第5表-4）

事業名	施設名＼項目		排水面積 500ha以上 箇所	排水面積 500ha以上 ha	排水面積 500～100ha 箇所	排水面積 500～100ha ha	排水面積 100ha未満 箇所	排水面積 100ha未満 ha	計 箇所	計 ha	排水慣行 (㎥/s)	現況排水能力 (㎥/s)	備考
農地環境整備事業	自然	排水路	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
		水　門	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	機械	排水機	－	－	－	－	－	－	－		－	－	
		水門及び排水機	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
		排水路及び排水機	－	－	－	－	11	〔11.8〕 36.5	11	〔11.8〕 36.5	－	1.75	
	計		－	－	－	－	11	〔11.8〕 36.5	－	〔11.8〕 36.5	－	1.75	

［　］は地区内分

（イ）改修を要する施設一覧表　　（第5表-5）

事業名	施設名	項目	施設名又は箇所数	受益面積(ha)	構　造	規　模(mm)	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備　考
農地環境整備事業	自然	排水路	－	－	－	－	－	－	
		水　門	－	－	－	－	－	－	
	機械	排水機	－	－	－	－	－	－	
		水門及び排水機	－	－	－	－	－	－	
		排水路及び排水機	農業用排水路 2.8km	11.8	開水路	200×400～900×900	－	老朽化	
	計		－	11.8	－	－	－	－	

（３）排水に関する被害状況
該当なし

３　河川状況
該当なし

第４節　　道路概況

１　道路概況

本地区には、町内外を結ぶ幹線道路として、県道436号線(作手清岳玖老勢線)が縦断しており、新城市中心部への重要な幹線道路となっている。その他に農道や市道などが集落や幹線道路を結んでいる。

（次頁　現況道路配置図参照）

２　主要道路一覧表

（第6表）

NO.	路　線　名	管理区分	延長（m）	幅　員（m）		構　　造	改修の要否	備　　考
				全幅	有効			
1	県道436号線(作手清岳玖老勢線)	愛知県	－	－	－	アスファルト舗装	否	

第５節　　地域農業の概況

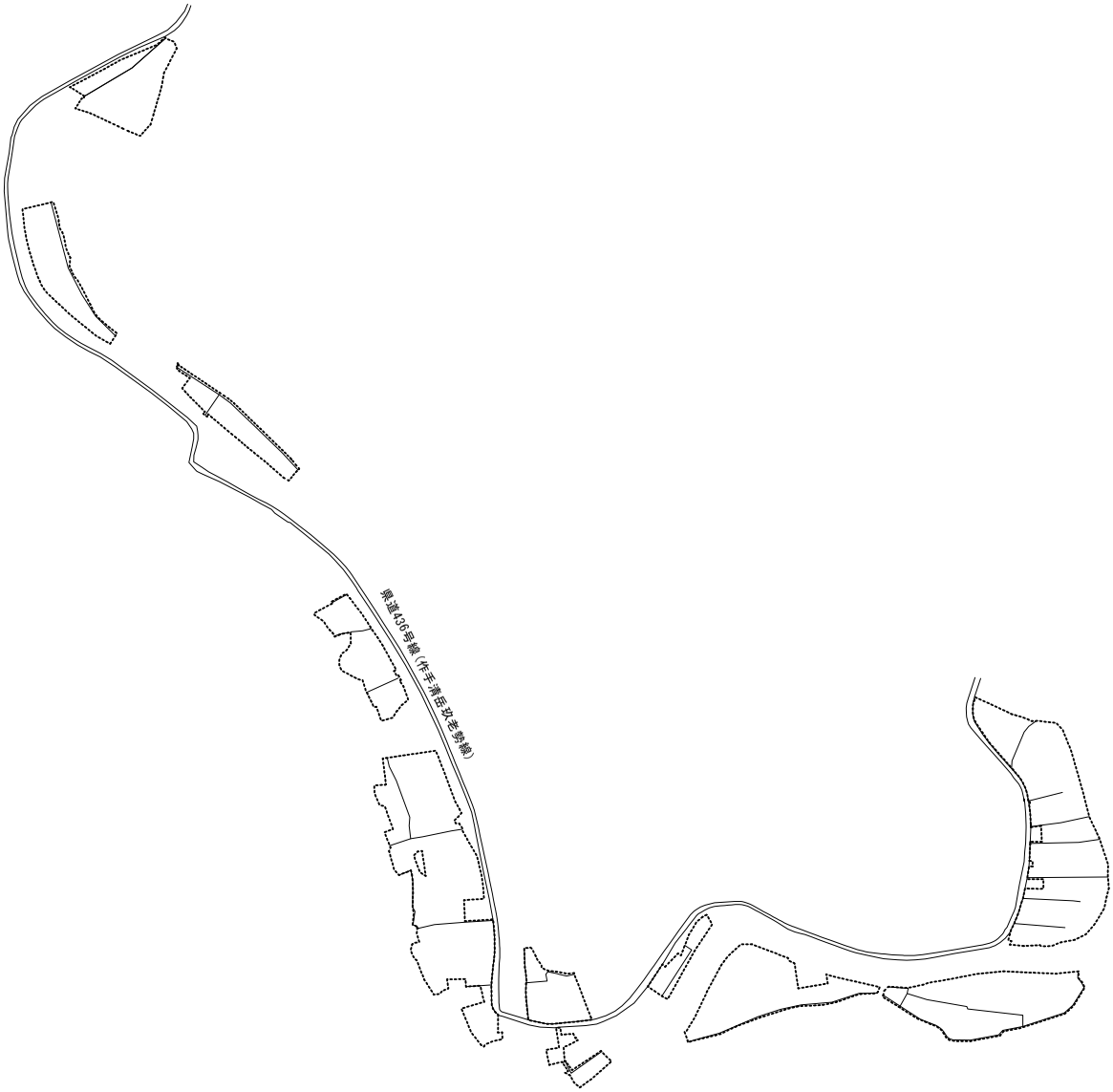
１　産業別就業人口

（第7表-1）

項目 / 市町村名	総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス熱供給水道業	運輸通信業	飲食店卸売小売業	金融保険業	不動産業	サービス業	公務	その他	備考
	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	（人）	
新城市	23,395	1,745	112	12	28	1,716	6,770	64	887	2,553	260	187	7,628	791	642	
比率(%)	100	7.5	0.5	0.1	0.1	7.3	28.9	0.3	3.8	10.9	1.1	0.8	32.6	3.4	2.7	

（出典:R2年国勢調査）

現 況 道 路 配 置 図



凡	例
	ほ場整備区域界
	主 要 道 路（県道436号線）
	現 況 道 路

２　経営耕地広狭別農業経営体数

（第7表-2）

区分 市町村名	農家総戸数 （戸）	経営耕地広狭別農家数（戸）										1戸当り平均農用地面積（ha）					備　考
		0.3 ha 未満 ha	0.3～0.5 ha	0.5～1.0 ha	1.0～1.5 ha	1.5～2.0 ha	2.0～3.0 ha	3.0～5.0 ha	5.0～10.0 ha	10.0～20.0 ha	20.0 ha 以上 ha	田	畑	樹園地	草地		
新城市	1,261	47	340	554	169	57	32	27	23	9	3	0.77	0.17	0.52	1.00		
比率(%)	100	4	27	43	13	5	3	2	2	1	0	31	7	21	41		

（出典：2020年農林業センサス）

３　主要家畜頭数

（第7表-3）

項　目 市町村名	主要家畜								備　考
	乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（100羽）	経営体数（経営体）	
新城市	576	8	2,164	35	－	－	6,304	7	「－」は、事実のないもの。
100経営体当り数量（台,頭,100羽）	7,200頭		6,183頭		－		90,057羽		
利用経営体数の割合(%)	16		70		－		14		

（出典：2020年農林業センサス）

4　主要作物作付状況

（第7表-4）

市町村名	新城市		作付割合	備　考
総耕地面積　(ha)	1,344			
区分 / 作物名	作付面積 (ha)		(%)	
水稲	673		97.5	「X」は、秘密保護上統計数値を公表しないもの。
麦類	1		0.2	
雑穀	2		0.3	
いも類	4		0.6	
豆類	1		0.1	
工芸作物	X		x	
野菜類	X		x	
果樹類	X		x	
花き類・花木	9		1.3	
その他の作物	X		x	
計	690		100.0	

（出典:2020年農林業センサス）

5　農業の動向

（第7表-5）

項目／区分	農業経営体数			土地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備　考	
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A			
変化の状況（C年を一〇〇とする指数）	農業経営体数	85	69	耕地	94	80	水稲	105	105	乳用牛	102	66	農振整備計画 昭和45年指定 昭和47年認可 特定農山村地域 平成5年指定 復興山村地域 昭和43年指定 過疎地域 平成17年指定	A… 令和2年 B… 平成27年 C… 平成22年の農業ｾﾝｻｽ値 「ｘ」・・・ 統計数値が公表されていないために指数を求められないもの 「-」・・・ 事実のないもの	
	個人経営体数	85	69	田	97	85	麦類	X	20	肉用牛	X	110			
	団体経営体(法人)数	131	94	畑	91	67	野菜類	X	X	豚	59	-			
	団体経営体（非法人）数	57	29	樹園地	83	77	花き類	X	28	採卵鶏	213	109			
変化の理由	農業経営体数は減少傾向にある。それに伴い、個人経営体数も減少している。 一方、農地集積が進み、団体経営体数が増加した。			農業経営体数の減少に伴い、耕地面積は全体的に減少傾向にある。			水稲は主要作物であるため、経営体規模拡大に伴い増加傾向にある。麦類及び花き類については、農業経営体数の減少、農地の減少等により減少傾向である。			畜産経営をとりまく社会的状況が厳しさを増していることから、飼養頭数は減少傾向にある。 一方、経営体規模の拡大が進み、採卵鶏の飼育数は増加した。					

（出典:2010年,2015年,2020年農林業センサス他）

第６節　　地域環境の概況

新城市は愛知県の東部、東三河地域の中央部に位置し、東を静岡県浜松市、西を岡崎市と豊川市、南を豊橋市、北を豊田市、北設楽郡設楽町及び東栄町に接している。北部は三河山間部を形成する豊かな緑に覆われるとともに、宇連ダム・大島ダムを抱え、東三河一帯の水源涵養の役割を果たしている。

市域の約９割が農地・森林であり、豊川・矢作川水系の本流とその小河川とで水と緑のネットワークが形成されており、野生生物は多様であるが全体的に生息空間は減少傾向のため、住民への理解推進や山・農・水空間の保全、森林整備が求められている。

また、不法投棄、害虫等の発生、大気汚染（野焼き）の割合が高くなっていることから未然防止が求められているほか、生活排水対策として公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽などの普及を進め水質保全を図っていく必要がある。

農地の現状としては、昭和30年代に農業構造改善事業等で整備してきたが高齢化の進行・水利施設の老朽化等が進んでおり、山間地ではさらに鳥獣被害により生産意欲が低下している状況であるため、担い手農家への農地流動化が図られるよう農業生産基盤の整備や農林業公社しんしろを核とした山間地農業での担い手の確保が求められている。

１　特に配慮すべき生物環境（植物、植生、動物）

豊川に沿って吹き込む温暖多湿な風により、鳳来寺山を中心とした南面の地域には暖帯系植物が広がり、更に奥の地域には温帯系の植物も見られる。植生は川合椎代の針葉樹天然林、乳岩植物群落、川合のムカデラン自生地、鳳来寺山植物群落、黄柳野のつげ自生地などがみられる。魚類はアユ、アマゴ、ホトケドジョウ、ネコギギ、アカザ、カジカなどが生息している。

２　特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

本市は天竜奥三河国定公園と本宮山・桜淵の両県立自然公園に属し、優れた自然景観を持ち合わせている。特に天竜奥三河国定公園は、鳳来寺山をはじめとする山岳地帯と鳳来峡や乳岩峡などで形成される河川景観からなっており、鳳来寺山パークウェイからの眺めは大変優美なことで知られている。また「板敷川」といわれる鳳来峡は、両側の山々を映し、美しい景観を保っている。

第４章　一般計画

第１節　　事業計画の要旨

１　要旨

本事業は、老朽化した用排水施設の整備並びに区画拡大を行い、農作業及び維持管理の省力化を図るとともに、優良農地の保全を促進することにより、農家の高齢化・兼業化の進む中、農作業の放棄による農地の荒廃を防ぐことを目的とする。

２　事業別面積

（第8表）

事業名	区画整理						計	備考
土　地 利用区分	水田	普通畑	牧草地	果樹園	その他	小計		
事業目的	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農地環境整備事業	10.1	0.9	－	－	3.2	14.2	14.2	計画平面図より求積

第２節　　営農計画及び土地利用計画

１　営農計画の概要

各種事業を行うことにより、維持管理費の軽減及び維持管理の省力化を図り、農作物の増収を図る。また、遊休農地の解消を図り、農業経営の安定と地域農業の発展、向上を図る。

２　土地利用区分

（第9表-1）

事業名	土地利用区分 / 区分	水　田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶　園 (ha)	その他 (ha)	小　計 (ha)	原　野 (ha)	山　林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備　　考
農地環境整備事業	現況	11.4	1.6	－	－	－	－	13.0	－	0.1	1.1	14.2	
	計画	10.1	0.9	－	－	－	－	11.0	－	0.1	3.1	14.2	

３　作付方式

（第9表-2）

事業名	項目	経営類型	土地利用区分	１年目												２年目												３年目												備　考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
農地環境整備事業	現況	水稲	水田			○	△					×	×					○	△					×	×					○	△					×	×			○・・・播種 △・・・定植 ×・・・収穫
		牧草					○						×						○						×						△				×					
		だいこん	畑									△			×									△			×									△			×	
	計画	現況と同じ																																						

4　生産計画

（第9表-3）

事業名	項目／土地利用区分		作物名	作付面積 (ha) 現況	計画	増減	作付率 (%) 現況	計画	単位面積当り収量 (kg/10a) 現況	計画	増減	生産量 (t) 現況	計画	増減	同左生産量増減の内訳 (t) 面積増減	単位面積当り収量増加	備考
農地環境整備事業	水田	表作	水稲	10.0	8.9	△ 1.1	83	87	490	622	132	49.0	55.4	6.4	△ 5.4	11.8	現況 本地率 田92%、畑97% 計画 本地率 田92%、畑97%
			牧草	0.5	0.4	△ 0.1	4	4	3,366	6,328	2,962	16.8	25.3	8.5	△ 3.4	11.9	
	畑	表作	だいこん	1.6	0.9	△ 0.7	13	9	4,511	6,857	2,346	72.2	61.7	△ 10.5	△ 31.6	21.1	
	計			[12.1] 12.1	[10.2] 10.2	[△1.9] △ 1.9	100	100									

＊作付面積欄の計で[　]内は実面積、外は延作付面積。
作付面積は、受益面積に本地率をかけたものである。

5　労働改善計画

（第9表-4）

事業名	項目 / 土地利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量(hr/10a) 区分	現況	計画	増減	備考
農地環境整備事業	水田	水稲	8.9	人　力	90.5	36.0	△ 54.5	
			[8.9]	機械力	6.9	6.0	△ 0.9	
	計		8.9					
			[8.9]					

6　級地別土地利用区分

該当なし

7　土地配分計画

該当なし

第３節　　用水計画

1　計画基準年

昭和２２年　．．．．．．．．．．　機構営豊川用水二期変更計画に準ずる

2　計画かんがい方式

かんがい方式

水田　．．．．．．．．．．．．．　開水路による貯留かんがい方式

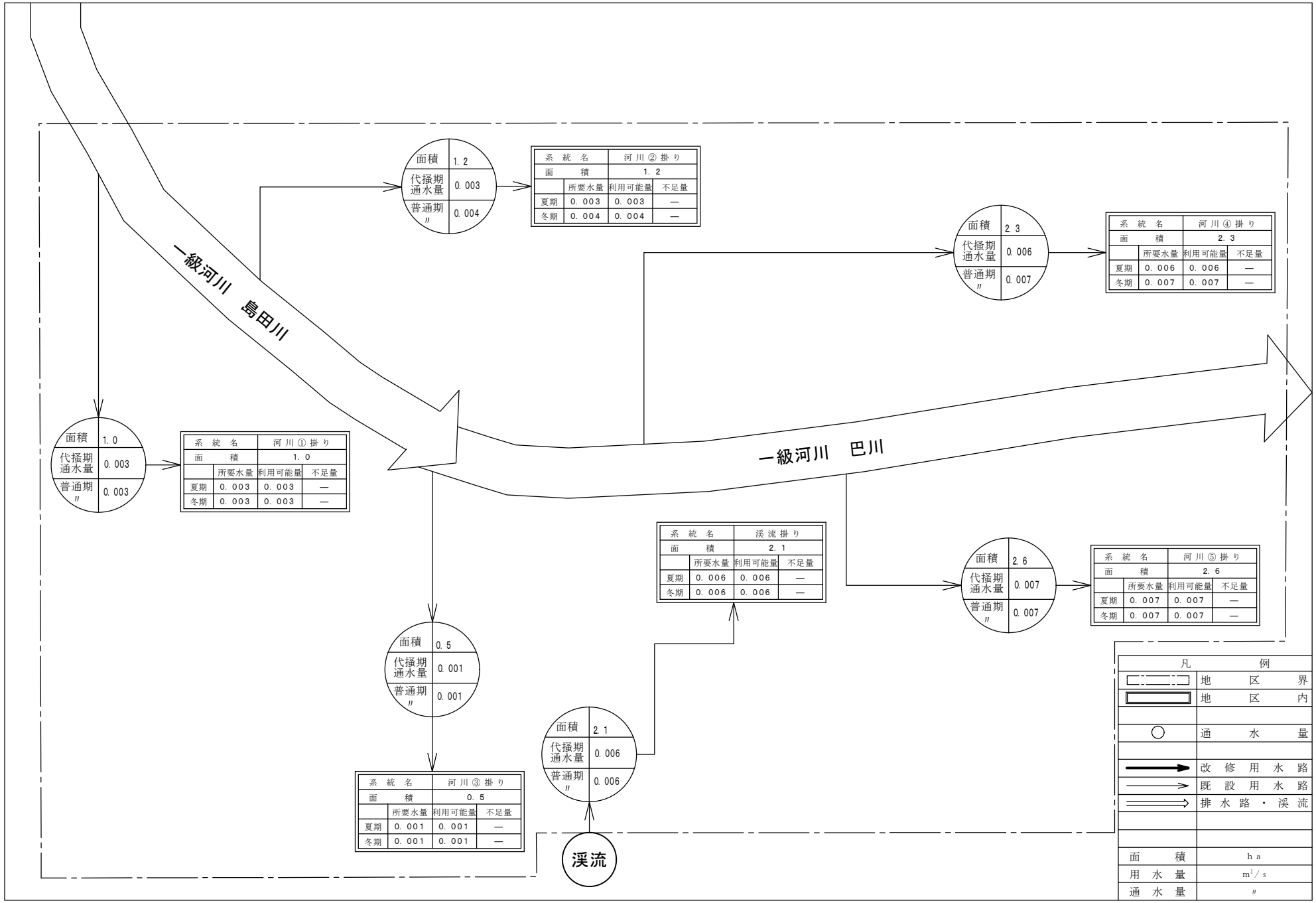
かんがい期間

水田（特早期）　．．．．．．．．．　４月２１日～８月３０日　１２１日間（代掻１５日間）

3　計画用水系統

（次頁　計画用水系統図参照）

計　画　用　水　系　統　図


一級河川　島田川
一級河川　巴川
面積 1.2
代掻期通水量 0.003
普通期〃 0.004
系統名 河川②掛り
面積 1.2
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.003 0.003 —
冬期 0.004 0.004 —
面積 2.3
代掻期通水量 0.006
普通期〃 0.007
系統名 河川④掛り
面積 2.3
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.006 0.006 —
冬期 0.007 0.007 —
面積 1.0
代掻期通水量 0.003
普通期〃 0.003
系統名 河川①掛り
面積 1.0
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.003 0.003 —
冬期 0.003 0.003 —
系統名 渓流掛り
面積 2.1
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.006 0.006 —
冬期 0.006 0.006 —
面積 2.6
代掻期通水量 0.007
普通期〃 0.007
系統名 河川⑤掛り
面積 2.6
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.007 0.007 —
冬期 0.007 0.007 —
面積 0.5
代掻期通水量 0.001
普通期〃 0.001
系統名 河川③掛り
面積 0.5
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.001 0.001 —
冬期 0.001 0.001 —
面積 2.1
代掻期通水量 0.006
普通期〃 0.006
渓流
凡例
地区界
地区内
通水量
改修用水路
既設用水路
排水路・渓流
面積 ha
用水量 m³/s
通水量 〃

4　計画用水量

（1）かんがい用水

（第10表-1-1）

項目 / 系統名	種別	面積(ha) 事業名 区画整理	面積(ha) 事業名 計	水田かんがい 普通期 計画平均単位用水量 (mm/日)	水田かんがい 代掻期 計画代掻単位用水量 (mm/日)	水田かんがい 面積 (ha)	水田畑利用 1日当り計画平均かん水深 (mm/日)	水田畑利用 平均間断日数 (日)	水田畑利用 面積 (ha)	畑地かんがい 1日当り計画平均かん水深 (mm/日)	畑地かんがい 平均間断日数 (日)	畑地かんがい 面積 (ha)	その他 計画平均単位用水量 (mm/日)	その他 面積 (ha)	消費水量 (㎥/s)	損失率 (%)	粗用水量 平均 (㎥/s)	粗用水量 最大 (㎥/s)	備考
塩瀬用水	農業用水	9.7	9.7	17.7	100	9.7	－	－	－	－	－	－	－	－	0.024	15	0.0260	0.0280	

（2）営農飲雑用水

該当なし

5　水源計画

（1）水利用計画

（第10表-2）

項目 / 区分	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量 水源名	現況利用可能水量 取水地点利用可能量	現況利用可能水量 ほ場利用可能量	不足量 純不足水量	不足量 全不足水量	水源依存量 水源名	水源依存量 水量	水源工種	備考
	a (千㎥)	b (千㎥)	c=a-b (千㎥)	d=c/(1-α) (千㎥)		e (千㎥)	f (千㎥)	g=c-f (千㎥)	h=d-e (千㎥)		(千㎥)		損失率：α
区画整理	233.2	39.7	193.5	227.6	巴川・島田川	274.4	245.5	－	－	巴川・島田川	227.6	既設利用	15%
計	233.2	39.7	193.5	227.6		274.4	245.5	－	－		227.6		

（２）用水対策

（ア）貯水池

該当なし

（イ）井堰及び自然取入口

（第10表-5）

項目 取水施設名	河川名	流域面積 (㎢)	かんがい面積(ha) 事　業　名 区画整理	取水量（㎥/S） 最　大 (㎥/s)	平　均 (㎥/s)	渇水量 (㎥/S)	備　考
古ヤシロ1号	島田川	－	1.0	0.003	0.003	－	
タカソヲ1号	島田川	－	1.2	0.004	0.003	－	
上貝津1号	巴川	－	0.5	0.001	0.001	－	
中貝津1号	渓流	－	2.1	0.006	0.006	－	
中平1号	巴川	－	2.3	0.007	0.006	－	
大持原1号	巴川	－	2.6	0.007	0.007	－	
合計		－	9.7	0.028	0.026	－	

（ウ）揚水機

該当なし

（エ）用水路

（第10表-6）

項目 名称	かんがい面積(ha) 事　業　名 区画整理	最大通水量 (㎥/s)	延　長 (km)	構　造	備　考
支線用水路	9.7	0.007	4.8	BF：200mm～350mm	

（オ）その他の水源施設

該当なし

（３）水質水温

該当なし

第４節　　排水計画

１　計画基準雨量

日雨量　　260.4mm/日（1/10年確率）. . . . . .　作手（高里）観測所の1899年～2023年までの既往125年間の観測記録から岩井法により確率雨量を求める。

Ｒ24 = 260.4mm/日　　Ｒ4 = 106.3mm/4hr

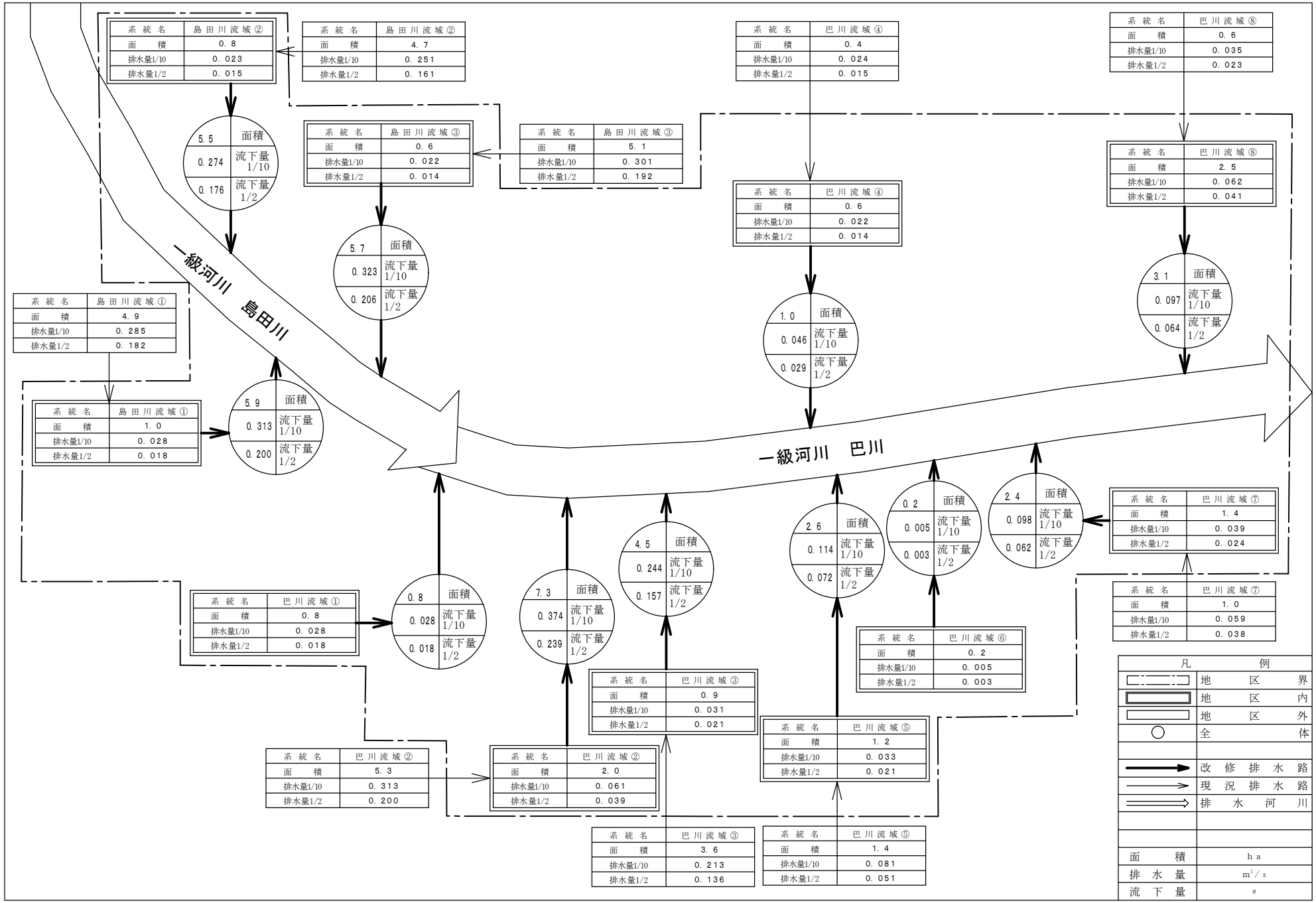
２　計画排水方式

自然排水　. . .　日雨量・日排除

３　計画排水系統

（次頁　計画排水系統図　参照）

計 画 排 水 系 統 図



系統名	島田川流域①	島田川流域②	島田川流域③	巴川流域①	巴川流域②	巴川流域③	巴川流域④	巴川流域⑤	巴川流域⑥	巴川流域⑦	巴川流域⑧
面積	4.9	0.8	4.7	0.8	5.3	0.9	0.4	1.2	0.2	1.4	0.6
排水量1/10	0.285	0.023	0.251	0.028	0.313	0.031	0.024	0.033	0.005	0.039	0.035
排水量1/2	0.182	0.015	0.161	0.018	0.200	0.021	0.015	0.021	0.003	0.024	0.023

系統名	島田川流域①	島田川流域③	巴川流域②	巴川流域③	巴川流域④	巴川流域⑤	巴川流域⑦	巴川流域⑧
面積	1.0	0.6	2.0	3.6	0.6	1.4	1.0	2.5
排水量1/10	0.028	0.022	0.061	0.213	0.022	0.081	0.059	0.062
排水量1/2	0.018	0.014	0.039	0.136	0.014	0.051	0.038	0.041

流域	面積	流下量 1/10	流下量 1/2
島田川流域①	5.9	0.313	0.200
島田川流域②	5.5	0.274	0.176
島田川流域③	5.7	0.323	0.206
巴川流域①	0.8	0.028	0.018
巴川流域②	7.3	0.374	0.239
巴川流域③	4.5	0.244	0.157
巴川流域④	1.0	0.046	0.029
巴川流域⑤	2.6	0.114	0.072
巴川流域⑥	0.2	0.005	0.003
巴川流域⑦	2.4	0.098	0.062
巴川流域⑧	3.1	0.097	0.064

4　計画排水量

（第11表-1）

項目 排水系統名	受益面積(ha) 事業名 農地環境整備事業	流域面積(km²) 山地	流域面積(km²) 平地	基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量(m³/s/km²) 山地	降雨による直接単位流出量(m³/s/km²) 平地 上段：農地 下段：その他	基底流出量(m³/s/km²) 山地	基底流出量(m³/s/km²) 平地	全排水量(m³/s) 山地	全排水量(m³/s) 平地 自然排水	全排水量(m³/s) 平地 機械排水	単位排出量(m³/s/km²) 山地	単位排出量(m³/s/km²) 平地 上段：農地 下段：その他	備考
島田川流域1	0.9	0.048	0.011	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.279	0.021	－	5.900	2.400 5.900	
島田川流域2	0.7	0.040	0.015	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.233	0.031	－	5.900	2.400 5.900	
島田川流域3	0.4	0.053	0.004	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.308	0.009	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域1	0.6	0.002	0.006	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.012	0.012	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域2	1.7	0.056	0.017	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.325	0.036	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域3	0.7	0.038	0.007	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.221	0.011	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域4	0.4	0.006	0.004	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.035	0.009	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域5	1.1	0.014	0.012	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.082	0.026	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域6	0.2	－	0.002	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	－	0.005	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域7	1.3	0.011	0.013	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.064	0.028	－	5.900	2.400 5.900	
巴川流域8	2.5	0.006	0.025	67.9	5.900	2.400 5.900	－	－	0.035	0.054	－	5.900	2.400 5.900	
計	10.5	0.274	0.116	－	－	－	－	－	1.594	0.242	－	－	－	

5　排水対策

（1）排水水門

該当なし

（2）排水機

該当なし

（3）排水路

（第11表-4）

項目 名称	流域面積 (km²)	受益面積(ha) 事業名 農地環境整備事業	計画排水量 (m³/s)	延　長 (km)	構　造	排水本川 名　称	計画洪水量 (m³/s)	計画洪水位 (m)	備　考
支線排水路	0.39	10.5	0.242	2.8	組立柵渠Ⅱ型	－	－	－	

（４）その他

該当なし

６　湛水検討

該当なし

第５節　　道路計画

１　道路及び索道

（１）道路

（第12表-1）

路線名＼項目	幅（有効）　×　延長（km）	構　造	既設道路との関係	備　考
支線道路	5.0　(4.5)　×　3.2 4.0　(3.5)　×　0.2	砂利舗装	市道への連絡	区画整理

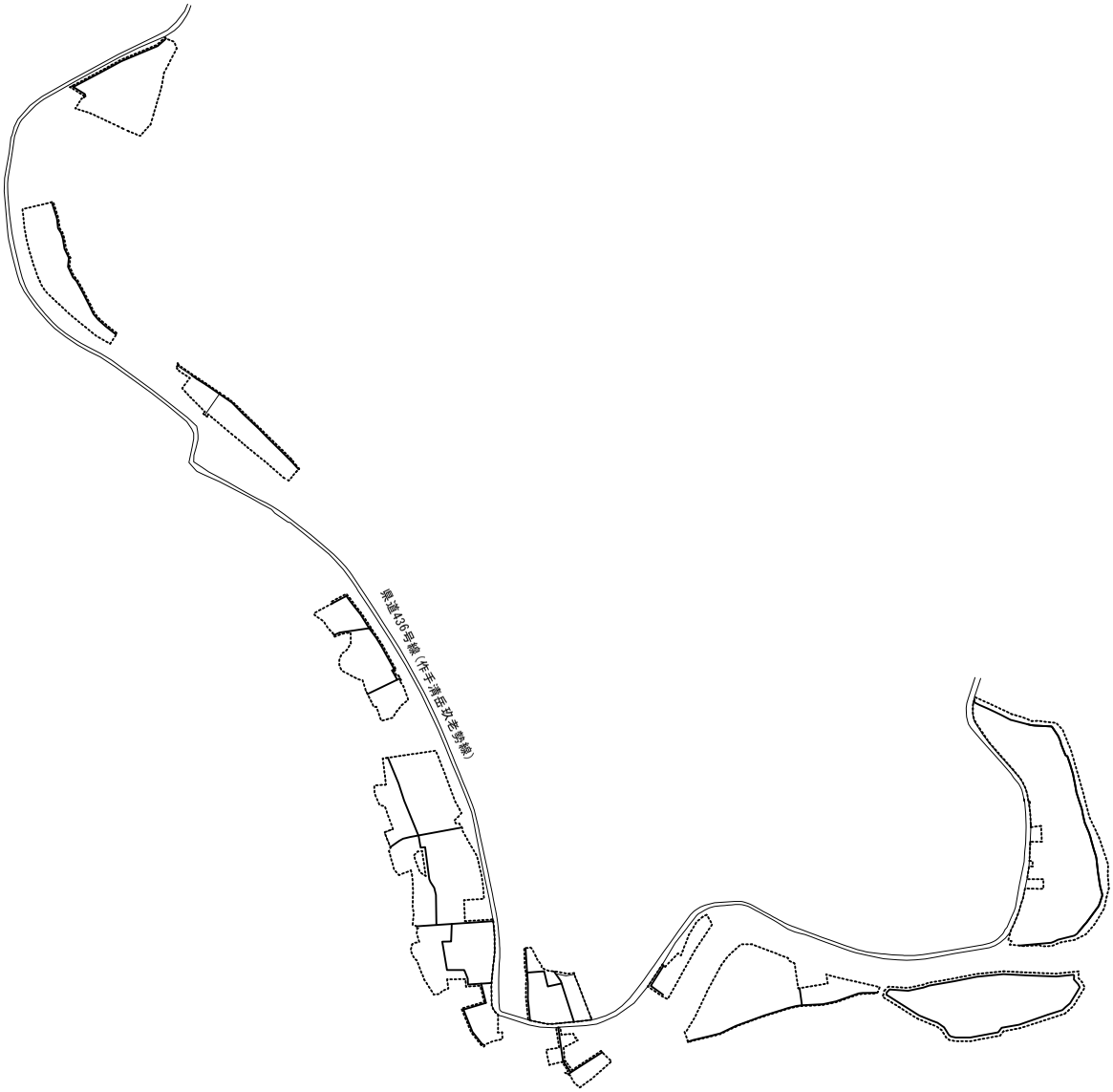
（２）索道

該当なし

２　路線配置図

（次頁　計画道路配置図　参照）

計 画 道 路 配 置 図



凡	例
	ほ場整備区域界
	主 要 道 路（県道436号線）
	計 画 道 路
	現 況 道 路

第６節　　農用地造成計画

該当なし

第７節　　洪水調整計画

該当なし

第８節　　干拓計画

該当なし

第９節　　農用地整備計画

１　区画整理

本地区は、圃場整備未実施である。区画は小さく農道が狭いもしくは未整備といった状況であり、近年では農業機械の大型化が進んでおり、効率的な営農が行えない状況である。このため、区画整理により連たん的に大型機械が使用可能な区画への改良を実施し、効率的な営農及び農地の集積を図る。

（１）区画の形状

（第16表-1）

長辺 × 短辺 (m)		区画面積 (a)	全体面積 (ha)	割　合 (%)	田面差 (m)	備　考
水田	40×50	10a～30a	4.8	44	－	
	75×40 80×125	30a～50a	5.3	48	－	
畑	50×20	10a未満	0.9	8	－	
計			11.0			

（２）表土扱い

（第16表-2）

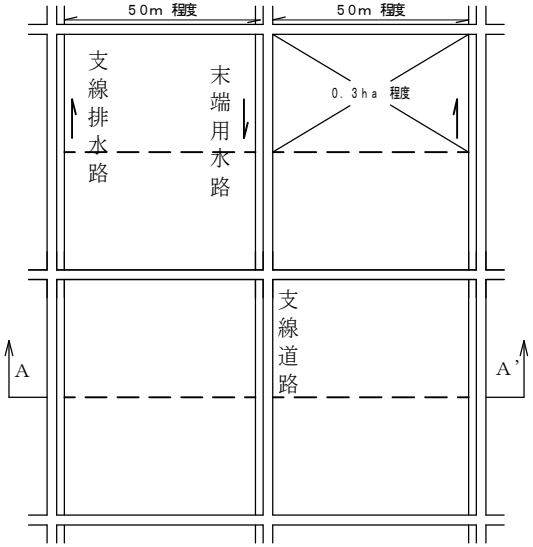
面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (㎥)	備考
8.3	高低差10cm以上	25	20,750	

（３）末端道水路配置図

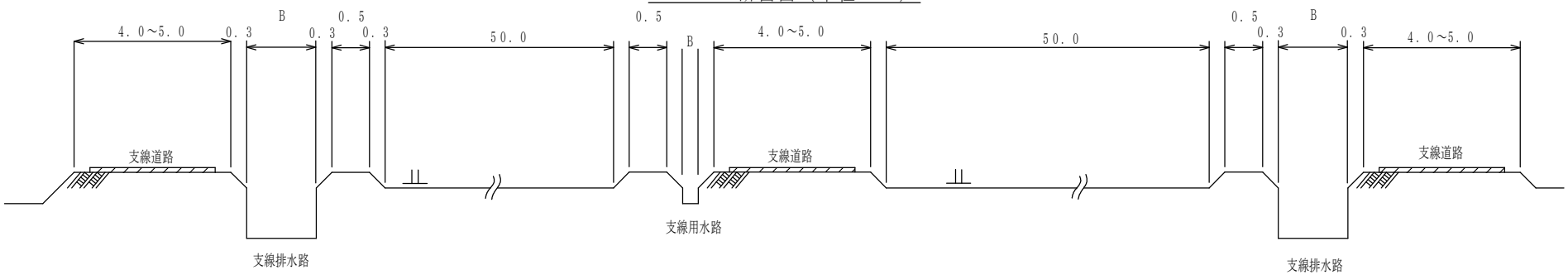
（次頁　末端道水路配置図参照）

末端道水路配置図

標 準 区 画（水田）



A－A’断面図（単位：m）



２　暗渠排水

該当なし

３　客　土

該当なし

４　農地保全

該当なし

第10節　　老朽ため池改修計画

該当なし

第５章　主要工事計画

第１節　　用水施設

１　貯水池

該当なし

２　頭首工

該当なし

３　揚水機

該当なし

４　用水路

（第17表-4）

項目 区分	かんがい面積(ha) 事業名 農地環境整備事業	計	通水量 (m^3/s)	延長(km) 開きょ	トンネル その他	計	構造	勾配(%)	主要構造物	備考
支線用水路	9.7	9.7	0.001～0.007	4.8	－	4.8	BF：200mm～ 350mm	0.002～0.02	－	

５　その他かんがい施設

該当なし

第２節　　排水施設

１　排水水門

該当なし

２　排水機

該当なし

３　排水路

（第18表-3）

項目 / 区分	受益面積(ha) / 事業名 / 農地環境整備事業	排水量 (m^3/s)	延長(km) 開きょ	延長(km) トンネルその他	延長(km) 計	構造	勾配(%)	主要構造物	備考
支線排水路	10.5	0.242	2.8	－	2.8	組立柵渠Ⅱ型	0.5	－	

４　その他排水施設

該当なし

第３節　　道路及び索道

１　道　路

（１）道路の総括表

（第19表-1）

項目 / 路線名	路線名	幅（有効）×延長 (m)　(km)	構　造	付帯構造物 名称	付帯構造物 構造	付帯構造物 数量（箇所）	最　急こう配（%）	同左の延　長（m）	最　小曲線半径（m）	備考
支線道路	10路線	5.0　(4.5)　×　3.2	砂利舗装	－	－	－	8%以内	3,355	－	
	1路線	4.0　(3.5)　×　0.2								

（２）道路主要構造物

該当なし

２　索　道

該当なし

第４節　　農用地造成

該当なし

第５節　　洪水調整施設

該当なし

第６節　　干拓施設

該当なし

第７節　　農用地整備施設

１　区画整理

（１）区画整理

（第23表-1）

工区名	面積(ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量(㎥)	面積（ha)	土量(㎥)	
塩瀬	4.8	10a～30a	10,769	3.5	8,750	水田
	5.3	30a～50a	19,581	4.8	12,000	水田
	0.9	10a未満	－	－	－	畑：不整地

（２）末端用水路等

該当なし

（３）末端排水路等

該当なし

２　暗渠排水

該当なし

３　客土

該当なし

４　除礫

該当なし

５　農地保全

該当なし

第８節　　老朽ため池改修施設

該当なし

第６章　附帯工事計画

用地買収及び補償費

（１）用地買収

該当なし

（２）補償費

電柱　　・・・・・・　　２０本

第７章　工事の着手及び完了の予定時期

１　工期　　着　　手　　令和８年度

完了予定　　令和１４年度（予定）

２　工事の年度割予定

工種＼年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	備考
実施設計等	■							
区画整理		■	■	■	■	■	■	

第８章　環境との調和への配慮

１　配慮の対象

工事対象である地区内の排水路には、水生生物が多く見られ、良好な生物生息空間が確保されている。工事に伴い、排水路への濁水や土砂流出等により、水生生物の生息環境への影響が懸念される。
本地区内は、新城市(旧鳳来町)田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域となっている。

２　配慮の方法

工事の施工においては、各所の合流桝にスロープを設置し、水路内へ落下したカエル類が脱出できるようにするとともに、鳥類の休憩、飲み場を確保する。
施工時期は保全対象生物が少ない時期を選ぶこととする。また、濁水及び土砂流出の防止を図り、周辺環境に配慮する。

第９章　換地計画の概要

第１節　　換地計画を作成する上での基本的な考え方

生産基盤整備事業により、土地利用の合理化と農地の集団化を図る換地計画を作成するものとする。

第２節　　換地区の設定

１　換地区の名称、所在、面積

（第25表-1）

換地区名	換地区の所在地	面積（ha）
塩瀬	新城市塩瀬地内	14.2

２　換地区を設定する理由

該当なし

第３節　　換地計画樹立の基本方針

１　従前の土地の地積の基準

（第25表-2）

換地区名	地　積　の　基　準
塩瀬	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、土地改良事業計画決定の日から６か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合には、その申出のあった地積とする。この場合、測量等にかかる費用は本人負担とする。

２　用途別予定地積

（単位：ha）　（第25表-3）

用途（取得予定者）／換地区名	前後	非農用地区域外に換地する土地													非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一般国公有地	総合計
		田	畑	山林・原野	その他	通常事業施工地域に含める土地（令第1条の9( )書き）			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創設農用地	合計	特定用途用地			異種目換地	創設非農用地					合計	国	県	市町村他	合計		
						施設 土地改良	その他	小計		改良区	その他	計			宅地	その他	計		農業経営合理化施設用地	生活上・必要な施設用地	公用・公共用施設用地	宅地等	計								
塩瀬	従前地	11.4	1.6	－	－	－	－	－	13.0	－	－	－	－	13.0	0.3	0.1	0.4	－	－	－	－	－	－	0.4	－	－	0.8	0.8	－	14.2
	換　地	10.1	0.9	－	－	－	－	－	11.0	0.8	－	0.8	－	11.8	0.3	0.1	0.4	－	－	－	－	－	－	0.4	－	－	2.0	2.0	－	14.2

３　農用地集団化の方針

（第25表-4）

区分／換地区名	地帯別・グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	１戸当り目標団地数	区画畦畔の取扱い
塩瀬	地目別集団化	水田及び畑の区域を設定し、各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に定める。	１～３団地	移動畦畔

４　非農用地換地の方法

（第25表-5）

区分 換地区名	用途	非農用地区域の位置の概略	面積（㎡）	換地の方法	換地取得予定者	その他
塩瀬	宅地	概ね従前のとおり	2,968.74	特定用途用地換地	従前地所有者	
	山林	概ね従前のとおり	872.00	特定用途用地換地	従前地所有者	
	農業用資材保管施設	概ね従前のとおり	394.21	特定用途用地換地	従前地所有者	
	合　計		4,234.95			

第４節　　土地の評価及び清算の方法

１　評価の方法

項目別配点方式

土地の自然条件及び利用条件等を調査項目とし、それらの条件の比重によって100点を配分して評価採点基準表を作成し、換地・評価委員がその項目内における条件の程度を点数に置き換え、項目毎に採点をし、その合計点数からその土地の等位を定め、その等位から価格を評定する。

２　清算の方法

比例地積清算

従前、換地の評価額に基づき、その事業による価格上昇分を増加額として算出する。それを１㎡当たりの増加額に割り戻すことにより各人別に換地交付基準額を算出し、各人の換地評価額を比較し清算する。

第５節　　換地計画樹立の年度計画

（第25表-6）

区分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備考
塩瀬	令和　13　年度	令和　14　年度	令和　14　年度	

第６節　　換地処分の時期に関する特則

換地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第８９条の２第１０項において準用する同法第５４条第２項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができる。

第10章　事業費の総額及び内訳

（第26表）

区分＼事業名		区画整理（千円）	備考
事　業　費※1)		906,000	
事務的経費※2)		55,800	
計		961,800	
（関連事業（参考））	―		
	―		

令和7年度単価。消費税については10%で算定。（但し、物価変動により将来変動することがある。）
※1)事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。
※2)事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改Ｄ第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第11章　効　　用

（第27表）

事業名	区分＼項目	年総効果（便益）額（千円）	年総増加農業所得額（千円）	うち機能向上分	備　考
農地環境整備事業	作物生産効果	27,287	10,341	10,341	
	品質向上効果	1,082	－	－	
	営農経費節減効果	6,460	19,319	19,319	
	維持管理費節減効果	△ 458	△ 292	△ 292	
	営農に係る走行経費節減効果	2,166	－	－	
	耕作放棄地防止効果	600	－	－	
	地籍確定効果	476	－	－	
	景観・環境保全効果	10,228	－	－	
	国産農作物安定供給効果	2,520	－	－	
	計	50,361	29,368	29,368	令和7年度単価

＜参考＞

①当該事業費	:	739,953 千円
②その他費用	:	59,843 千円
③総事業費	:	799,796 千円
④年償還額	:	3,592 千円/年
④’うち機能向上分	:	3,592 千円/年
⑤年総効果（便益）額	:	50,361 千円/年
⑥現況年総農業所得額	:	7,647 千円/年
⑦年総増加農業所得額	:	29,368 千円/年
評価期間	:	47 年
割引率	:	0.04

⑧	総便益額	:	895,483 千円
⑨	総費用総便益比（⑧÷③）	:	1.11 ≧1.0
⑩	総所得償還率（④÷⑥）	:	47.0 ≧20.0%
⑪	増加所得償還率（④’÷⑦）	:	12.3 ≦40.0%

第12章　関連する事業

該当なし

第13章　現況・計画平面図

1　位置図

別紙『位置図』参照

2　計画平面図及び土地利用計画図

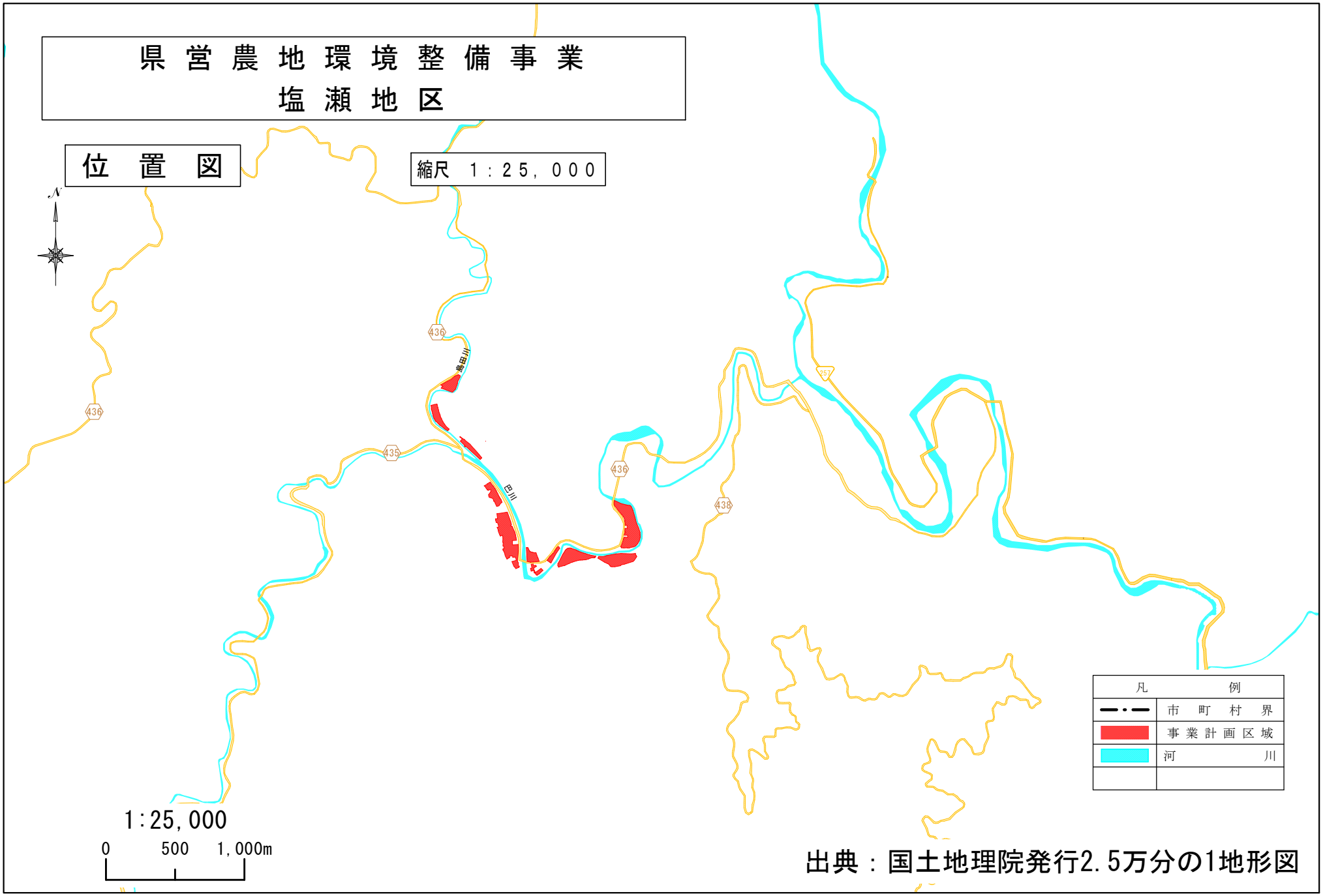
別紙『現況計画平面図』参照

3　主要構造図

別紙『現況計画平面図』参照

4　主要構造図

別紙『現況計画平面図』参照

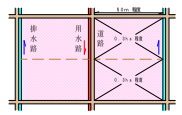

県営農地環境整備事業
塩瀬地区
位置図
縮尺 1：25，000
N
436
435
436
438
257
巴川
1:25,000
0
500
1,000m
凡例
市町村界
事業計画区域
河川
出典：国土地理院発行2.5万分の1地形図

県営農地環境整備事業　塩瀬地区

現況計画平面図　縮尺：1:2,500

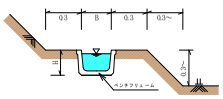
位置図

区画割図



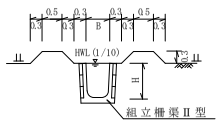
用水路工

（単位：m）



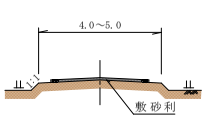
排水路工

（単位：m）



道路工

（単位：m）



凡例	
	字界
	生産区域
	保全管理区域
	水田
	水田（牧草）
	畑
	宅地等
	山林
	用水路整備
	排水路整備
	農道整備
	既設農道
	計画畦畔

0　100　200　300　400　500m

1:2,500 (A1)

図面の名称	図面番号

測量	平成　年　月　日完了		
設計			
製図 原図			
製図 複写			
事業所名		事業所主任	
主管部長		主管課主任	

出典：新城市作成 都市計画基本図